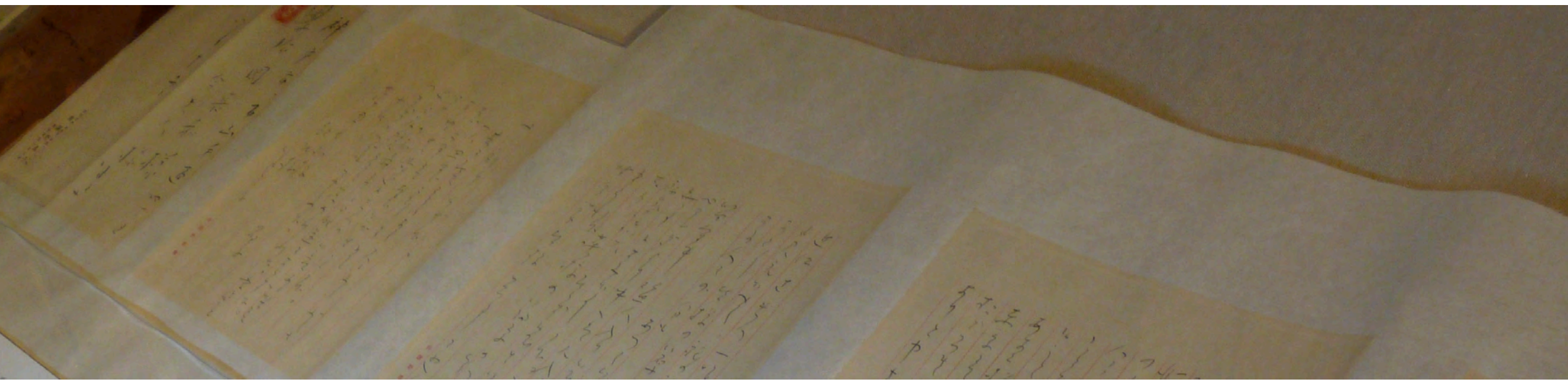
石井柏亭画　与謝野寛と晶子の肖像
藤岡家文庫「与謝野寛短歌全集」より



与謝野晶子の書簡

むさし野の家におきふしいたし候ことはや三日になり候。なほも旅路の夢に立ち巻かれ候にて、おちゐぬこと自ら幼くあはれに覚え候。

この度は誠にいろいろと御心づくしのおもてなし項きうれしきこと限りもなく候。私どものみならずいくたりも伴ひまゐりし人まで御厚志により幸せ多き旅をいたし候。御忙しさもつゐによく心得ながら何かと御無理なることと御ねがひし候ことも、ここにあつく御礼申上げ候。御わび申上げ候。石井様、英子様とは初めより御一所にて、御一族の方のあたたかき御性質が作りしなごやかさに全くひたり居りしこととふかく思はれ候。船の中の一夜もおもしろく候らひき。御銭のくだものわけて人人をよろこばせ候。

今度の旅の話をいたし面白かりしことをせめてまぼろしに再現いたさせ候こと、この秋、むさし野にもあらばなど、あなた様石井様方の御出京のまたれ候。

東京にて平野氏に石井様のことを申し候におどろきうれしく候ひき。近江、辻夫人一昨日も見え、今日あたりも見え候べく、旅の話つきずなど申居られ、かたがた皆様の御厚意をよろこび居られ候。その人人の分もあつく御礼申上げ候。留守中盗人入り候ひしよしなれどベランダより中へは入らず、誰も知らず無事にすみ候よしに候。それに誰も病気もいたし居らず候ひき。ご安心下されたく候。

英様の御京の今よりまたれ候。

時分がら皆様御大事に遊ばすべく祈り上げ候。

共に居てさうなく君が一人想はばこひしからまし

など、六甲にておもひ候がまことに候。

平野氏最近に婦人のお産ある候にて、四十の初産とて御心配並並ならず候。近江病院にてと定め居られ候。

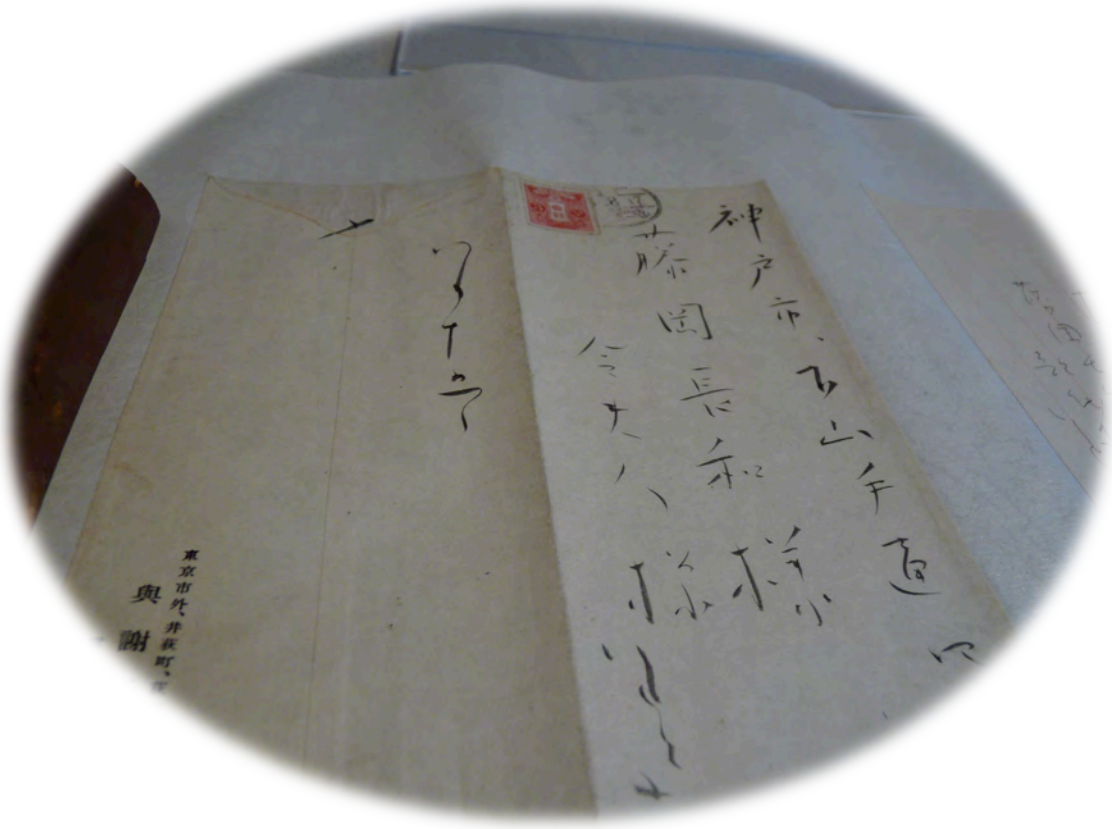
聞き度きことつきず候へ共筆とめ候。

十四日　晶子

藤岡長和様
歌代様
おもとに

封筒　神戸市下山手通四丁目
藤岡長和様
同　婦人様
おもとに

八月十五日



展示室で展示中